## From that place PHOTOGRAPHS & TEXT BY SAORI NINOMIYA editor in chief: Yumi Goto | art director: Mayuko Ishikawa translator: Sachiko Yasuda | text editor: Karen Coates, Akiko Higgins





以前から思っていたことがある。心に大きな傷を負った人たちと共同作 彼女たちの、悲惨な場面を撮ることは、そう難しいことじゃない。彼女らを過 業がしたい、という思いだ。最初、それは私自身が性犯罪被害者だからわ 去に押し戻し、その範疇で画を撮ればいい。でも。 いた気持ちだったのかもしれない。しかし、いつしかそんな個人的な思(彼女らは、私のカメラの前でなら自由になれると言ってくれた。被害の際、写 いった。

性犯罪被害者である彼女たちにカメラの前に立ってもらい、私がそれを それならば。 追いかける。被害者同士の共同作業は、そうした形で実現される。どんな 私は彼女たちの「今」を撮ろうと思う。悲惨な過去ではなく、できるなら「今」と ふうに撮るか、どんなふうに撮られるか、そういった説明は一切なし、まさ「未来」とを撮りたい。あんなことがあっても、ここまでちゃんと生き延びてき にぶっつけ本番で撮影は始まる。

今年で四度目を数える「あの場所から」。以前、まだ作りかけの作品を参 時効、という言葉が在る。しかし。 加してくれた彼女らに送った折、返って来た共通の言葉があった。私は 犯罪には、加害者がいれば当然、被害者もいる。その被害者にとって、時効 恐らく一生、その言葉を忘れることはないだろう。「信じられない、私、など、存在しない。 笑ってる。私、まだこんな顔をすることができたんだね」

笑うことなど一切できなくなった日々、立ち上がることなどもちろん、ぴく そのことを、決して忘れないでほしい。 りと動くことさえ叶わなかった日々があった。誰かを信じるなんざとても 被害者に、時効は、ない。 た。

それでも。

彼女たちは間違いなくあの時、笑っていた。

彼女たちは間違いなくあの日、泣いていた。

泣いて笑って、笑って泣いて、もう死んだと思っていた感情が、まるで波 泣くこと を、怒ることを、喜ぶことを忘れないで。 のように、寄せてはひき、ひいては寄せて。そして、彼女らは自然に、隣に 生き証人が、ここに在る。 いる誰かの肩を、強く抱きしめてもいたのだ。

そんな彼女たちの物語の一断面が、ここに、在る。

いを越えて、彼女らと向き合いたいという思いが私の中、強烈に膨らんで 真を撮られた被害者もいる。そのせいでそれ以後写真を撮られるたびにパ ニックを起こすようになってしまった者もいる。そういった者たちが、私のカ メラの前でなら伸び伸びすることができると言ってくれた。

たよ、これからも生きるよ、という声を撮りたい。

加害者には時効が成立するけれども、被害者には、時効は存在しないのだ。

できやしない、誰かを抱きしめるなんて遠い夢、そんな日々があった。で そしてこうした物事は、いつ自分の身の上に降りかかるか分からない。もし きるならこの世から自分を抹殺したいと願うしかできなかった日々もあっ かしたら明日にでも、あなたは被害者になるかもしれない。決して他人事で はないのだ。

そのことを、忘れないでほしい。どうか覚えていてほしい。

そして、もしも被害者になってしまったとき。どんなにそれが深い心の傷で あっても、笑うことを失わないで。

どんなに深く傷ついても、ずたぼろになっても、生きてゆく、そのことこそ、人 間の為せる術なのだということを。どうか、忘れないでほしい。

Whenever I recall it, I become painfully aware that I am not who I was before

被害のことを思い出すたびに痛感するのだ。「私は、これまでの私ではない」と。

Hime ひめ

Sorrow remains, yet I am still alive. I cannot stop questioning why. 苦しみは残されたが、生かされた自分。その意味は何だろうと考えずにはいられない。

Not yet being so, I wish that someday the time will come when I can appreciate my life. I promise myself that I will live for it.

今はまだ無理だとしても、私にも「命があって幸せ」と思える日が来るのかもしれない。 その日を目指して、私は生きていこうと思う。

"Should I die now or later?"This was the only thought that drove my life at that time

「今死ぬか、後で死ぬか」。当時私を突き動かしていたものは、その思いだけだった。

I could not tell anyone about what had happened, and I was blamed all the time. I was always scared of "the next damage" that could possibly happen at anytime, while I had to pretend like nothing happened and live a normal life.

誰にも被害のことを話すことができず、世界は四六時中私を責め続け、

今度いつ来るかもしれない「次の被害」に怯え、

それでも平穏な生活を演じなければならない。その重圧は私をこれでもかというほど蝕んだ。

By seeing me gradually recover, some people have told me that I was not myself back then and now I am back. But this is not true. I did not "come back." I have been "reborn."

徐々に回復に向かっている私に人が言う。「あの頃のあなたはあなたではなかった。元のあなたが帰って来た」。 でもそれは違う。私は「帰って来た」のではなく、「新しく生まれて」きたのだ。

Mayu まゆ





The "emotion" and "sense," which we thought were once dead, are about to come back to life within us. Therefore, we will live on 被害を受け、もう死んでしまったとばかり思っていた「感情」と「感覚」が再び私たちの中で息をしようとしている。 だからこそ私たちはここからもなお、生きてゆくのだ。

still experience flashbacks and dissociation while my whole body freezes with fear and sorrow. am sometimes obsessed by the idea that this suffering does not end unless I kill myself.

今でもフラッシュバックや解離が起き、恐怖や悲しさで体が固まってしまうことがある。 早く自分を殺してしまわなくては、苦しみは終わらないと思いこむ時もある。

Can we move forward? I hope that more and more people come to sympathize and live with victims like u もうひとつ先へ、私たちは進むことができないのか? 被害者と共に考え、歩んでくれる人が一人でも多くなることを願っている。

l would like to be a person who is involved with the "process of healing (recovery/rebirth)," through which anybody who is forced to be a "victim" can live her life "peacefully without fear." 私は今、全ての「被害者」という位置にいる人たちが、毎日を「怯えず何事もなく」生きていけるようになる、そんな「再生の過程」に関われる人間になりたい。

Akihiko 秋日子

Now I do not stand in front of a camera. I gaze after friends who are innocently running across the field. Being raped at the age of 18, my mind and body are invisibly, but surely, damaged. Yet I will keep walking I will keep alive. 私は今、カメラの前には立っていない。草原の向こうで無心に走る仲間たちをじっと見つめている。

私は今、カメブの前には立っていない。早原の向こりで無心に定る仲間だらをしつと見つめている。 18歳で被害に遭い砕け散った心と体は、見えない傷でいっぱいだ。それでも私は歩き続ける。そして生き続ける。

I have been suffering from the fact that I was continuously sexually abused by a family member. I always felt worthless.

家族から性虐待を受け続けた事実は、ずっと私を苦しめ続けた。自分の価値なんて全くないと思っていた。

How people get over the trauma and damage by sexual abuse varies. I ill not forgive the crime; yet, I decided not to hate it.

Once I allowed myself not to forgive it, that made my life easier.

性虐待や性被害の乗り越え方は人それぞれだろう。それを許すつもりはない。
でも、僧むことはやめた。許さないことを自分に認めたら、私は生きやすくなった。

Mari まり

It is endless to name things such as rape, child pornography, domestic violence and sexual harassment. If we can bring them down (or break them down) from anywhere, we may be able to find something. But who will do it? This is each one of us who has to do it, after all.

強姦、児童ポルノ、DV、セクシャルハラスメント、そういった固有名詞を挙げだしたらきりがないのが現実だ。 そのどこかしらからでも切り崩していけるなら、何かがかわるかもしれない。 でもそれを誰が為すのか。それは、私たちひとりひとり、だ。

We have to keep in mind that it is not somebody else's problem. You also can be a victim of sexual crimes at any time, even at this moment.

どうか「他人事」として捉えないでほしい。

性犯罪被害は、今この時にでも、あなたの身の上に起き得るできごとだということを、強く感じてほしい。

Saori Ninomiya にのみやさをり

